



本堂五階に新しい納骨堂が完成しました。
てん しゅ かく
万松寺納骨堂 天聚閣
鳳凰に込めた願い



萬松寺新聞 The news of Banshoji temple [Hakubi report]



←ご本尊は、木像の十一面観音像。大変美しいお顔立ちで、堂内でも一層の存在感を放たれています。

先月、本堂五階に当山四つ目の納骨堂が完成致しました。「天聚閣」という名は、本堂の最上階、天に近く、皆様の想いが「聚（あつ）まる」場所という意味で命名されました。お堂は光溢れる天空の間をイメージ。そして、エントランスを飾る箔ガラスには、悠々と舞う鳳凰が彫刻されています。鳳凰は中国神話の伝説の鳥、霊鳥ですが、縁起のよい鳥であることから、多くの美術品や建築物にその意匠が使われている事が多く、日本では平等院鳳凰堂（宇治市）や金閣寺（京都市）の屋根にあるものが有名です。さらに住職は、鳳凰は「天と地を橋渡す役目をする」として、新しい納骨堂に鳳凰を描きました。また最近では、当山が商店街の中にあり、とても便利な

持っている」と言います。多くの方が集い、ご先祖（の）想いやご家族の絆を深める場所になる事、これは萬松寺納骨堂の共通した願いでもあります。鳳凰の役目が、そのまま納骨堂の役目となつて、その役割を果たせる事を願い、新しい納骨堂に鳳凰を描きました。また最近では、当山が商店街の中にあり、とても便利な



↑天聚閣で本尊の開眼法要の様子。開眼という言葉通り、目を開くという意味のあるこの法要ですが、行って初めて仏像に霊験が宿ります。仏像作りでは最期に目を描きこみますが、これを儀式としたものが開眼法要。これを以て完成となります。またこの開眼法要は仏壇、お墓、位牌などを新しく購入する際にも、僧侶によって行われます。

→東側に位置する納骨壇には、自然光を取り入れた鳳凰をモチーフとしたガラス細工を施しています。



場所である事から、お参りの回数が増え、家族が集まる機会が増えたという声も多々いただきます。変化し続ける街や人ですが、お寺も変化を受け入れながら、いつの世も人と人がつながり、皆が集える場所であり続けたいと願っています。

万松寺駐車場&万松寺パーキングがさらに便利に!

駐車場精算機で
クレジットカードが
使用できます!



カードを入れるだけサイン不要の簡単精算

楽Edy タッチするだけで簡単精算!
電子マネー「楽Edy」も使えます!

24時間 年中無休
★24時間最大 (平日: 1,100円 土日祝: 1,500円)
※2004年4/1より改定しました。
●昼間 (8:00 ~ 20:00) 100円/15分 【お問合せ】
●夜間 (20:00 ~ 8:00) 50円/30分 052-251-4543

■旧券の交換は管理事務所 (万松寺ビル北館1階) または万松寺境内の受取へ。 (9時~18時)

ご祈祷 供養は
萬松寺

◆9月28日 「秋期不動明王大祭」

◆毎月28日はお不動さんの縁日

午後六時~、境内にて織田信長公ゆかりの由緒を伝える
「身代り餅つき」が行われ、参拝客の方々に振舞われます。

からくり人形『信長』は午前10時~2時間おきに毎日5回上演しております。雨天強風の際は上演されません。

- ◆十一面観世音菩薩: 先祖供養、水子供養
- ◆身代り不動明王: 厄除け、無病息災、身体健全 病気平癒、災難消除
- ◆白雪稲荷: 商売繁盛、家内安全 各種ご祈祷を受け付けております。ご祈祷の受付は午前10時~4時半まで。

亀嶽林 萬松寺

お問合せ TEL 052-262-0735

◎なるほど仏教

食事五観の偈ごかん

食事のいただき方、意識してみましよう。

曹洞宗の開祖、道元禪師の著述には「典座教訓」(てんぞきようくん)という、食事を作る人の心得が書かれたものと、「赴粥飯法」(ふしゆくはんぼう)という食事の心得が書かれたものがあります。この中で何度も示されている心とは、「一功の多少を計り彼(か)の来処(らいしよ)を量(はか)る。この食事がどうしてできたかを考え、食事が調うまでの多くの人々の働きに感謝をいたします。二己が徳行(とくぎよう)の全欠(けんけつ)を付(はか)って供(く)に忘(わす)れず。自分の行いが、この食を頂くに価するものであるかどうか反省します。三心を防ぎ過(とが)を離(はな)れることは貪等(とんとう)を宗(しゅう)とし、心を正しく保ち、あやまった行いを避けるために、貪など三つの過ちを持たないことを誓います。四正に良薬(りょうやく)を事(こと)とすることは形枯(ぎようこ)を療(りよう)ぜんが為(ため)なり。食とは良薬(りょうやく)であり、身体をやしない、正しい健康を得るために頂くのです。五成道(じょうどう)の為(ため)の故(ゆえ)に今この食(じき)を受(う)く。今この食事を頂くのは、己の道を成し遂げるためです。

粒の米、一滴の水をも大切に扱いなさい」ということです。現代は飽食の時代ですが、私達は食事の大切さにこそしっかり向き合わず、ではなりません。なぜならば、食べる事は生きるための最大の基本行為ですので、それがいいかげんならば、経を「五観の偈」(←左記、

しっかりした心も体もつくれません。「いただく」ということを忘れ、インスタント食品の味にごまかされて本来の食材の味を見失えば当然栄養バランスも崩れてしまうでしょうし、また最近では子供の糖尿病も増えているのだとか。食育の基本とは「何を食べるか」ではなく「どういただくか」です。その食事を「いただく」時のお経を「五観の偈」(←左記、

その偈文)といえます。そして、その五つの偈分には、一つには、大自然の恵みと多くの人々の労苦があったことを思い感謝していただくこと。二つには、この食事をいただくにふさわしい行ないをしているかどうか反省していただくこと。三つには、好き嫌いせず味わっていただき、「むさぼり、いかり、ねたみ」の三毒をおさえ、修養の心をもつていただくこと。四つには、健康な体と心を保つために良薬としていただくこと。五つには、円満な人格形成(仏の道を成ずるため)の為にいただくことが説かれています。

曹洞宗は鎌倉時代、道元禪師が正伝の仏法を中国から日本に伝え、瑩山禪師によって全国に広められました。教えの根幹は坐禅にあり「只管打坐/しかんたざ」ただひたすらに坐ることが基本姿勢です。他の目的の達成手段として坐禅をするのではなく、坐禅する姿そのものが、悟りの姿だという教えです。道元禪師はまた、坐禅だけではなく全て日常行為に坐禅と同じ価値を見だし、禅の修行として行うことを説かれています。

坐禅を習おう 子供参禅会

in 佐久島

ヨットでGO!

今年も萬松寺では恒例の子供参禅会を行いました。子供達が坐禅を習うとともに、自然にふれあい、食事の大切さも学びます。食前には五観の偈を読みあげ食事をいただきました。

近頃、坐禅をする人達が
増えていると聞きます。坐
禅は本来、他の目的の手段
として行うものではありませんが、実際、特に現代
人の心と体には大変良い効
果をもたらします。最近の
子供も大人もパソコン、ゲー
ム機などを使って、ほとん
ど体を動かさない生活を
送っています。そういった生
活を送っているとセロトニン
神経という脳内の神経が弱
まり「うつ病」を引き起し
やすい状態になるそうで
す。坐禅を行うと、このセ
ロトニン神経が活性化され、
心と体がリフレッシュされる
といえます。



↑8月に行われた「子供参禅会」の様子。子どもは体が柔らかいからか、心が素直なのか、非常に美しい姿勢で坐禅をしますね。最近の子供達は、大人も顔負けな程、忙しい日々を送っているとか。そんな日常から少し心を切り離し、リラックスして欲しいとの想いでも、毎年開催しています。